

## 0 理念

### 進捗状況報告

スポーツ科学・健康科学研究室の組織改革は、2007年度所属教員の社会学部移籍、2008年度の間人福祉学部移籍予定という全学的な組織改革と連動させながら関係部局との調整をすすめている。各種講習会への参加、研究室教員間の相互授業訪問、救急法、教授法の研究会開催等をおこない所属教員の実技に関する教授能力の向上をはかっている。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

学生による授業評価の結果を見ると、演習科目全体の平均値としては概ね4.0を超えており、高い評価を得ていると考えることができる。2008年度より所属教員が人間福祉学部に移籍することになり各人の研究活動の主フィールドは学部活動の中に組み込まれることになる。しかし、教育活動としてのスポーツ科学・健康科学研究室の機能は維持・向上させていかなければならない。

### 学内第三者評価

2007年度には教員の社会学部移籍を実施し、さらに2008年度からは新設の人間福祉学部への移籍が行われることになっており、大きな変革が実現することになるが、これによってスポーツ科学・健康科学研究室の理念・目的は実現に向けて具体的にどのように進められていこうとしているのか、説明が必要である。

なお、2005年度の（改善の具体的方策）で記されている「スポーツ科学・健康科学科目の演習は実技と講義（理論）の混交形式で授業を運営している。研究業績を背景とした講義内容の向上のみを指向するのではなく、実技に関しても指導・教授内容の向上を目指さなければならない」と記されており、2007年度の進捗状況報告にも教員の実技に関する教授能力の向上を図っていることが示されているが、それが演習科目にどのように反映され、学生への教育において成果がどのように出ているかについて記述が望まれる。